

平成22年度 教育実践総合センター活動概要

1. 構成員

センター長（併任）：教授 岡 直樹

専任教員：

《学校教育相談実践部門》

教授 岡 直樹 教授 栗原慎二

《教育実践研究開発部門》

准教授 池田 隆

相談員：エリクソン・ユキコ，勝部奈美，外山智絵

事務補佐員：竹ノ中亜由美

2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

(1) 子どもの心と学び支援セミナー「適切な指導に結びつける見立てのプランの立て方」

期日：平成22年7月10日（土） 場所：広島大学教育学部第一会議室

講師：バーンズ 亀山 静子（ニューヨーク市公認スクールサイコロジスト）

対象：現職教員、教職志望の大学生・大学院生 参加者数：50名

《学校でのアセスメントの実践的な方法についての研修と、そのアセスメントに基づいた目標設定の仕方についての研修を行った。アセスメントの実践については一つの方法ではなく、複数の手段を用いてアセスメントを行うことの大切さについて、また、目標設定については資質や能力に見合った短期的目標と長期的目標設定について検討した。演習では実際に現場でよくあるような事例を取り上げ、グループ討議を行った。また、アセスメントと目標は相互に関連し合うものであると同時に、子どもの状態の変化に応じて変容するものであり、修正していく必要性や、目標設定はなるべく計測可能なもので行うことなどの重要性が指摘された。》

(2) 教員養成講座「小学校教師に求められる授業力・学級経営力UP！」

期日：平成22年12月15日（水） 場所：東広島市立高屋西小学校

講師：生田 一人（東広島市立高屋西小学校・校長）

高梨 あゆみ（東広島市立高屋西小学校・教諭）

池田 隆（広島大学大学院教育学研究科・准教授）

対象：学部4年生 参加者数：15名

《本講座は、小学校教師としての実践的指導力の向上と必要な資質を養うことを目的として、公立小学校を会場にして、現職教員による師範授業「道徳」の観察及び研究協議、その後、学級づくりの進め方や生徒指導の在り方、保護者対応、授業技術等をテーマとした講話とQ&Aを実施した。また、初任者研修の実際や特別な支援を要する児童への対応に関する研修も深めた。》

3. センター専任教員による学外講演等の活動

生徒指導・教育相談、認知カウンセリング、学習支援、アセスメント等に係る講演・演習指導

期間：通年（160回） 対象：主に教員、保護者 人数：約7500名

「いじめ問題の理解と対応」独立行政法人教員研修センター 平成22年度生徒指導指導者養成研修 6/24（80名）

「生徒指導リーダー養成研修」広島市教育委員会（7/27, 8/23, 11/26, 12/28, 2/23）（延べ約800名）

「総社市不登校対策研修会」総社市教育委員会（4/26, 5/24, 6/1, 7/6, 8/9, 10, 9/3, 10/12, 12/3,

2/18, 3/7) (延べ約 1800 名)

「9 年間を見据えた生徒指導の在り方」阿品台中学校区 3 校生徒指導合同研修会 7/23 (80 名)

「児童生徒の学習意欲を引き出す授業の進め方について」広島県生徒指導研究グループ
平成 22 年度第 15 回生徒指導研究グループ宿泊研修会 7/25 (90 名)

「学校トラブル相談事例集の作成にあたって～いじめ・児童虐待への対応に係る留意事項～」
呉市教育委員会平成 22 年度呉市自立支援サポート事業専門委員会 9/24 (15 名)

「学校・家庭・地域で育成する自己指導能力」三次市立三次中学校「巴」プロジェクト事業
三次中学校公開教育研究会 10/17 (80 名)

「児童生徒の学習意欲を引き出す授業の進め方ー生徒指導の 3 機能を生かした授業づくりー」
広島県教育委員会平成 22 年度第 2 回西部教育事務所芸北支所管内小中学校生徒指導主事等研修
11/10 (60 名)

「生徒指導の 3 機能を生かした授業づくり」安芸高田市立吉田小学校校内研修会 1/6 (20 名)

「新学習指導要領実施に係る「中学校理科」の授業改善と評価のポイント」福山市学校教育
研究団体連絡協議会第 9 回中学校理科研究会 2/15 (20 名)

「学校と保護者・地域が一体となった児童生徒の育成」庄原市立口和中学校 PTA 教育講演会
2/26 (70 名)

4. 研究活動

(1) センタープロジェクト研究

広島市との連携、研究協力に基づく共同研究「生徒指導主事を対象とした研修プログラムの
開発的研究」

岡山県総社市との協力に基づく共同研究「マルチレベルアプローチによる生徒指導改革の研
究」

(2) 平成 22 年度教育学研究科共同研究プロジェクト

「子どもの心と学び支援実習が学生の専門的実践力育成に及ぼす効果」

5. 教育・社会貢献事業

(1) にこにこルーム (学校心理教育支援室)

《学習相談》 にこにこルームの学習相談に参加した学生は 52 名。

① 前期(2010 年 5 月 12 日(水)から 2010 年 7 月 28 日(水))水曜日の活動

東広島市内の小学校 9 校から 4 年生以上の児童 18 名を抽選で選び、5 月 12 日から 7 月 28 日まで、
毎週水曜日に認知カウンセリングを 9 回行った。時間は、小学生は、午後 5 時 30 分から 7 時 20
分までの 110 分で、算数の認知カウンセリングを 60 分、遊びを 45 分、保護者を交えた帰りの会を
5 分行った。中学生は、3 名の中学 1 年生を対象に数学の認知カウンセリングを 60 分行った。セッ
ション終了後、毎回ケース検討会を行った。

② 後期(2010 年 10 月 27 日(水)から 2011 年 2 月 16 日(水))水曜日の活動

東広島市内の小学校 9 校から 4 年生以上の児童 15 名を抽選で選び、10 月 27 日から 2 月 16 日まで、
毎週水曜日に認知カウンセリングを計 12 回行った。時間は、小学生は、午後 5 時 30 分から 7 時
20 分までの 110 分で、勉強を 60 分、遊びを 45 分、保護者を交えた帰りの会を 5 分行った。中学
生は、1 年生 2 名を対象に 60 分から 90 分認知カウンセリングを行った。セッション終了後、毎回
ケース検討会を行った。

③ その他 (サマー・セッション及びスプリング・セッション)

2010 年 8 月 3 日から 5 日までの 3 日間、1 回あたり 60 分、小学生 19 名、中学生 5 名を対象に認知
カウンセリングを行った。また、2011 年 3 月 1 日から 3 日までの 3 日間、1 回あたり 60 分から 90
分、小学生 17 名、中学生 1 名を対象に認知カウンセリングを行った。

水曜日以外の学習相談は、にこにこルーム 12 件、にこにこ千田ルーム 6 件であった。

《学校臨床相談》

一年間を通じて、にこにこルームの活動の一環として、臨床心理士による臨床相談活動を行うとともに、支援員らのケース検討会およびセミナーを開催した。

①臨床相談（毎週木曜日・土曜日に実施日）

総来談件数 43 件 延べ相談ケース数：162（2/20 現在）

②定期ケース検討会（原則木曜日 18:00～20:30） 延べ 30 回

(2) 学校コンサルテーション活動

概要：学校での生徒指導・教育相談に関するコンサルテーション

時期：通年（64 回） 対象：教員および保護者等 人数：延べ約 140 名

(3) フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員 13 名から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織し、その運営にあたっている。

①活動の形態及び内容

22 年度は「地域教育実践 I・II」の授業として通年で開講した。

活動は、H22.5 から H22.2 にかけて月例活動 8 回、大学内シンポジウム 1 回を行った。

月例活動の活動時間帯は、午前 10 時から午後 4 時。参加学生は、受講学生と単位を必要としないボランティア学生を含め 106 名。児童は東広島市立小学校 37 校から募集した 123 名。地域協力者は、東広島市下見地区を中心とする 19 名。児童 7～8 名と学生 5 名で 1 班とし、16 班を編成し、バトル（4 班）、季節（4 班）、へんしん（4 班）、ぐろーばる（4 班）の 4 グループに分けてグループ活動や畑での栽培活動、餅つきなどの活動を行った。

(4) 学外から委嘱された委員等

- ・ 日本教育心理学会理事
- ・ 日本心理学会専門別議員（第 1 部門）
- ・ 学会連合資格「学校心理士」認定運営機構認定委員
- ・ 広島市立古田中学校学校協力者会議委員
- ・ 文部科学省「生徒指導に関する教員研修の在り方研究会」委員
- ・ 文部科学省『「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の見直しに関する調査研究」協力者
- ・ 日本学校教育相談学会広島支部長
- ・ 財団法人こども教育支援財団ディレクター
- ・ NPO 広島産業カウンセリング研究会自由区顧問
- ・ 日本学校教育相談学会中央研修委員
- ・ 日本学校教育相談学会論文審査協力委員
- ・ 日本ピア・サポート学会研究紀要委員長
- ・ 東広島市青少年問題協議会委員
- ・ 東広島市平成 21・22 年度新・学校教育レベルアッププラン推進委員会委員
- ・ 広島県立広島中学校・広島高等学校学校関係者評価委員

6. 研究紀要の刊行

- ・ 学校教育実践学研究（第 17 巻）の刊行